観光料飲部会長報告

1．会議名　第4回観光料飲部会（オープン）

2．日　時　2025年3月25日（火）
　　14：30～16：00

3．場　所　当所ホール80

4．出席者　部会員等37名

5．懇　談　テーマ「台湾人旅行者の動向について」
　　ゲスト　秋田市観光文化スポーツ部
　　部長　石黒　道人　氏

　　テーマ「湯沢市の外国人誘客について」
　　ゲスト　(一社)湯沢市観光物産協会
　　インバウンド事業担当　伊藤　豪　氏

（1）台湾人旅行者の動向について（秋田県観光文化スポーツ部）

◆ 訪日外国人客の推移

・訪日外国人の数は年々増加しており、コロナ前の水準を超えた。
（2024年、年間3,600万人）
・消費額は8.1兆円と過去最高。台湾だけで1兆円（前年比40%増）。
中国に次いで高い消費額。
・台湾から日本へ来る人の9割はリピーターであるため、地方エリアへの訪問希望が多い傾向。
・外国人宿泊者数の地域別シェア率は、東京、京都、大阪で半分、東北は全体の1.5%前後と伸び悩んでいる。
・東北における外国人宿泊者で最も多いのが台湾人で約5割を占め、秋田県でも4割を占める。

◆ 台湾チャーター便（秋田空港 - 台湾・桃園空港）の運航・利用状況

・台湾人向け団体ツアー7割、台湾の個人客2割、日本人は全体の約1割。
・平均搭乗率9割と好調を維持している。
・ツアー客の県内の訪問先は、十和田湖、角館、田沢湖、なまはげ館、真山伝承館など。観光地ではないが、「秋田まるごと市場」や「秋田ふるさと村」「イオンモール秋田」がお土産購入の定番となっている。

（1）台湾人旅行者の動向について（秋田県観光文化スポーツ部）

◆ 台湾人観光客の特徴

・リピーターが多いことから地方の人気が高く、ご当地グルメの満喫、自然景観の体験が目的で、運動・スポーツも人気がある。
・ネット利用率が高く、情報をSNS等からとる方がほとんどで、デジタルによる情報発信が重要となる。
・モバイル決済（Apple Pay等）利用者が多いため、端末の準備でお買い物やサービスを利用いただけるチャンスが増える。

◆ 今後の秋田のインバウンド戦略について

・受入環境整備として、中国語（繁体字）での表示や、翻訳アプリの導入、同エリア内の他の観光コンテンツとの連携によるモデルコース等を提案・発信することも大切となる。
・台湾側から「秋田県は行政の人ばかりで企業の人はほとんど来ない」と言われる。セールスに熱心な他県の温泉地に宿泊先を奪われているのが現状。
・行政の役割はアクセス整備や県全体の情報発信に留まるため、個々の事業者が、情報発信やセールス活動にしっかり取り組むことが必要である。

（２）湯沢市の外国人誘客について　(一社)湯沢市観光物産協会

◆ 湯沢市観光の状況

・ 2024年、秋田県の外国人宿泊者数11万人に対し、湯沢市は約2,000人（0.02%）であり、湯沢にもっと人を呼び込みたいと考えている。

・秋田空港、仙台空港、その他の主要な駅などからのアクセスが厳しい場所にある。しかし、アクセスが悪くても目的地になれば人は来る。

◆ 湯沢市インバウンド観光推進機構

・ 2024年設立。湯沢商工会議所、ゆざわ小町商工会、湯沢市観光物産協会の3団体で構成。

・観光情報の一元化を図り、宣伝施策に特化することで、市全体で観光振興を図る狙いがある。

・「匠の里構想」と称して、稲庭うどん、川連漆器の製作体験、酒造見学なども含め、職人の技を学べる体験コンテンツ、温泉、スキーなどの自然体験のコンテンツ等をブランディングし、湯沢を目的地にしてもらうべく様々な取り組みを進めている。